

英彦山観光ガイドブック



添田町観光ガイドボランティア

◇ 耶馬日田英彦山国定公園の一枚をなし、標高1199.6Mの南岳を最高峰とし、中岳、北岳の三峰が連なっています。

◇ 山形県の羽黒山、奈良県の大峰山と並び、日本三大修験道場の山です。

◇ 英彦山の名称の由来

御祭神が天照大神の御子、天^{あめのおし}忍穗耳^{ほみのみこと}命であることから日子山と称されていましたが、822年嵯峨天皇より彦山に改められました。1729年霊元法皇より英の一字をいただき英彦山となりました。

かね 銅の鳥居 (国指定重要文化財)	1637年佐賀藩主 鍋島勝茂公の寄進。 青銅製の円筒形で型式は明神鳥居。高さ7m 柱回り3m。 6個の積み重ね。 英彦山という額は、1729年霊元法皇より英の一字を賜り、 1734年に掲げた。
鎮西上人像	浄土宗の二祖。 智室窟で修行し、嘉穂郡明星寺から、千日願を懸け毎日往復した。
点内合法社	山内における不浄のない様点検する守り神。 祭神は高皇産 ^{たかみむすびのみこと} 命。
下ノ宮	神幸祭(神輿 ^{みこし})の旅殿。 下手に雲輝殿と呼ばれる大仏殿があった。
大門通り	銅の鳥居から奉幣殿までの約1kmの参道。 1671～1687年(元禄時代)二代目小倉藩主 小笠原忠雄は、中谷の一部に彦山町50軒と道幅12m、長さ約1kmの石畳や石段の大参道を構築し、両側に名門坊を集中させ、桃源郷を思わせる山上都市ができた。

桜の馬場	約200年前、二条良実が山桜を寄進。 明治41年（1908年）に植えかえられた。
さいぞうぼう 財蔵坊 (福岡県指定有形民俗文化財)	修験者（山伏）達の住む家を「坊」と云い、英彦山詣りの檀家の宿として利用された。 規模は中位に属し、坊の全形を残している。150年前の築。
ぞうりょうぼう 増了坊	約300年英彦山を援助した鍋島家の宿坊。 英彦山三大坊の一つ。
彦山石垣	自然石の石積み（野面積み ^{のづらづ} ）（穴太積み ^{あのうづ} ）で、大小の石を交えている。門口の石垣の角に一本の立て石を使う。大坊の門口に太閤石を築き、城の風格をもたせている。
いしとうろう 石燈籠	小城藩主 鍋島直能が天和2（1682）年献納。 約60対基あり。
長梅外	1801年天ヶ瀬に生まれる。もとは長谷允 ^{まこと} 。広瀬淡窓の弟子。 明治18年明治天皇、御前揮毫 ^{ごぜんきごう} （漢詩を作り書く）。
長三州私塾跡	長三州：幼名光太郎、1833年天ヶ瀬に生まれる。梅外の子。 広瀬淡窓の弟子。 晩年、宮内省文学御用掛をつとめた。 山口の明倫館の客員講師となったこともある。
ほうきょういんとう 宝篋印塔	約8mで日本最大級。 熊本の高僧、豪潮律師により1817年建立。
高浜年尾句碑	『石垣は みな坊跡や 鶯紅葉 ^{つたもみじ} 』 昭和31年11月10～11日、英彦山滞在時の作。 高浜虚子の長男。

<p>旧亀石坊の雪舟庭園 (国指定名勝)</p>	<p>高低を利用して築山を造り、山裾に池を配している。 山の水、石を利用した池泉鑑賞式庭園。 室町時代(1475年)頃 画僧雪舟作。</p>
<p>座主院跡</p>	<p>1333年、後伏見天皇第六皇子 助有法親王を座主として迎え、彦山山伏を統轄するようになった。 輪番制座主から世襲制座主となる。 城壁を思わせる石垣と黒門跡。池泉鑑賞式庭園(桃山時代作)。</p>
<p>しょうこんしゃ 招魂社</p>	<p>幕末の尊王攘夷運動で11人の英彦山義僧が小倉藩にとらわれ獄死した慰霊碑(1863年)。</p>
<p>広瀬淡窓の詩碑</p>	<p>1810年(29歳)、彦山参詣時の漢詩。 淡窓は詩人であり、儒学者で、24歳で塾(咸宜園)を起こし、学んだ者は4,000人以上。英彦山の弟子は23人。</p>
<p>杉田久女句碑</p>	<p>昭和6年、日本新名勝俳句で金賞を受けた句。 高住神社にも句碑有り。</p>
<p>奉幣殿 (国指定重要文化財)</p>	<p>修験道時代霊仙寺の大講堂で、現在の建物は1616年、小倉藩主 細川忠興の再建。 屋根は柿葺、入母屋造り。桃山時代。</p>
<p>石鳥居</p>	<p>1663年、佐賀藩主 二代鍋島光茂の献納。</p>
<p>御神水</p>	<p>円通の滝からの水。</p>
<p>ほんしょう 梵鐘</p>	<p>室町時代から玉屋窟にあったが、1594年岩石城主 毛利久八郎吉勝が追銘して、霊仙寺に寄進。</p>